

地域連携  
インスリン導入クリティカルパス

インスリン導入を安全に確実に行うために

姫路赤十字病院 糖尿病チーム



## はじめに

当院では、2週間の教育入院プログラムと糖尿病教室の活動を中心に糖尿病患者様の診療を行っています。平成13年2月に発足した糖尿病診療チームは、医師・看護師・臨床検査技師・栄養士・薬剤師から構成され、各専門分野の知識を生かした患者指導を目指しています。

近年、糖尿病患者様の増加に伴い当院でも糖尿病初診患者数は増加の傾向にあります。そして、インスリン治療に注目しますと、2000年のインスリンアナログ製剤の導入やペン・デバイスの改善により、インスリン導入が簡便となった一方、アナログミックス製剤や持効型インスリンの発売とインスリン治療方法の選択枝が増えたため、専門性の高い医療が要求されるようになりました。当院と地域の診療所とが連携して診療を進めることにより、さらに多くの患者様に質の高い医療が提供できると思われれます。インスリン治療は医師によるインスリン処方だけで、十分な効果を得ることは困難です。食事療法、自己血糖管理のための簡易血糖測定の手技、正確なインスリン自己注射の手技、インスリンの管理方法など薬剤に対する基礎知識、これらの指導が十分となっはじめて安全で有効なインスリン治療が実現されると考えます。

当院の糖尿病スタッフによる栄養指導、自己血糖測定指導、その他患者指導を含むインスリン導入を行い、その後は地域の先生方による『かかりつけ医』ならではの細やかな診療が連携できれば、より多くの患者様に質の高いインスリン治療が提供できると考えます。

そこで、治療の流れがわかりやすく、地域の先生方のご意見が反映された継続治療のための試みとして、『地域連携インスリン導入クリティカルパス』の作成を試みました。糖尿病非専門医の先生方にも多くご参加いただき、姫路地区の糖尿病治療の向上を目指したいと存じます。

姫路赤十字病院  
第一内科副部長 北野元子  
日本内科学会認定内科専門医  
日本糖尿病学会専門医  
日本消化器病学会専門医



## 連携の流れ

インスリン治療を必要とする患者様の発生

当院地域連携室を介してのご紹介・初診受診

地域連携インスリン導入クリティカルパスを用いた入院治療

地域の『かかりつけ医』による継続治療

1 ヶ月後と3 ヶ月後の当院アフターケア

インスリンの変更・食事療法再指導など

必要時に当院への再診紹介

## 初診時の診療

- 1、 入院予約。  
現役でご活躍の患者様への配慮と当院のベッド事情を考え  
金曜日のご入院、月曜日のご退院（4日間入院）を提案します。
- 2、 初診日の外来検査は予定せず、初診患者様は原則として食事をしてご  
来院いただき、入院予約をいたします。
- 3、 入院説明。入院資料の説明と配布（入院患者様共通の当院の書類）、入  
院診療計画書の配布（地域連携インスリン導入パス〔患者様用〕）
- 4、 ご自宅でのお食事の記録3日分を依頼する。記入用紙を3日分差し上  
げ、入院までにご記入いただきます。用紙は入院時に持参いただき栄  
養指導時の参考資料にします。

## 患者様の達成目標

自己血糖測定（SMBG）を実践できる。

- 1、 簡易血糖測定器を用いて自己測定できる。
- 2、 糖尿病手帳に測定値を記入する。
- 3、 いつ血糖を測定すればよいか理解できる。
- 4、 簡易血糖測定器のメンテナンスについて理解する。

インスリンの自己注射ができるようになる。

- 1、 インスリンの自己注射ができる（手技のマスター）。
- 2、 インスリンの種類と効果がわかる。
- 3、 低血糖時の対応がわかる。
- 4、 病気のときの対応がわかる。

土曜日・日曜日にビデオ学習をする。

- 1、 糖尿病とは
- 2、 合併症
- 3、 血管が危ない
- 4、 その他

食事療法の方法がわかる。

- 1、 管理栄養士による個別栄養指導を行う。
- 2、 自分の適性カロリーがわかる。
- 3、 食品交換表を用いた単位計算ができる。

時下、先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より当院へ患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

糖尿病患者様によりよい医療を提供することを目標に、当院では平成 13 年より糖尿病チームを結成し、診療に従事してまいりました。現在、糖尿病教育入院クリティカルパスに沿った約 2 週間の教育入院プログラムを実施しております（資料 1）。一方、インスリン治療に関しては、患者様個別の診療計画を行ってまいりました。ご開業の先生からの患者様のご紹介も多く、深くお礼申し上げます。有効なインスリン治療には患者様の自己管理能力が要求され患者様指導が必要となります。このような煩雑さが、多忙な診療のなかでのインスリン導入を阻む一因と考えられます。このたび、地域の先生方と当院の糖尿病チームが連携してより多くの患者様を対象に安全なインスリン導入を行うことを目的に『地域連携インスリン導入パス』を作成いたしました（資料 2）。インスリン導入を要する患者様がございましたら、是非ご紹介いただきたいと存じます。また、先生方からのご意見も頂戴し、よりよい病診連携医療の実現に向けて研鑽を重ねたく存じます。